

事項	有機質資材及び有機質肥料がこまつなの発芽に及ぼす影響		
ねらい	有機栽培等の取り組みが増加しているところから、有機質資材等がこまつな(指標植物)の発芽に及ぼす影響を検討したところ、知見が得られたので参考にする。		
指導 参考 考 内 容	<p>1 有機質資材(豚糞堆肥)</p> <p>(1) こまつなの発芽率に及ぼす影響 10a当たり800kg(窒素20kg)施用した場合、2日後には種すると発芽不良を生じる。10a当たり400kg(窒素10kg)以下の施用では、2日後には種しても発芽不良は生じない。</p> <p>(2) 施用後は種時期の目安 発芽障害を防ぐため施用後一週間以上おいてからは種する。</p> <p>2 有機質肥料</p> <p>(1) こまつなの発芽率に及ぼす影響 10a当たりの窒素20kgを施用した場合、2日後には種すると発芽不良を生じる。窒素5kg施用した場合であっても、肥料によっては発芽率がやや低下する。</p> <p>(2) 施用後は種時期の目安 発芽障害を防ぐため施用後一週間以上おいてからは種する。</p>		
期待される効果	有機質資材、有機質肥料を施用する際の発芽障害が解消できる。		
利用上の注意事項	有機質資材、有機質肥料のC/N比などの特性を把握した上で、施用する。		
担当	青森県畑作園芸試験場 病虫肥料部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成11年度 青森県畑作園芸試験場成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

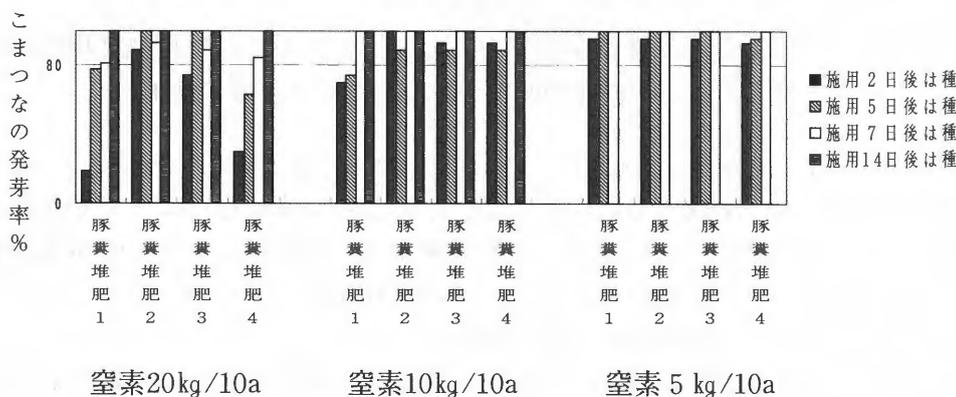


図1 有機質資材と発芽率の関係 (平成11年 青森畑園試)

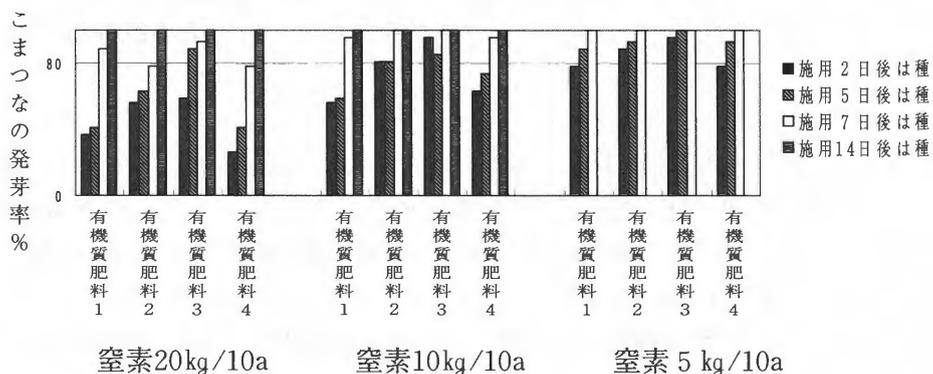


図2 有機質肥料と発芽率の関係 (平成11年 青森畑園試)

試験条件

供試作物：こまつな 供試品種：浜美2号
 試験時間：9月～10月 試験場所：ガラス室
 検定方法：窒素20, 10, 5 kg/10a相当量の資材と土壌を混合後、1/5000 a ワグネルポットに詰めた。その後2, 5, 7, 14日後にこまつなをは種した。は種量は1穴3粒の9か所とした。
 検定基準：発芽率80%以下を発芽不良とした。

供試資材

資材名	生重当たりの窒素%	原料
豚糞堆肥1	2	豚糞+おがくず+稲わら (7日間発酵処理を行ったもの)
豚糞堆肥2	2	豚糞+おがくず+稲わら (7日間発酵処理を行い、2ヶ月間堆積)
豚糞堆肥3	3	豚糞+おがくず+稲わら (7日間発酵処理を行い、4ヶ月間堆積)
豚糞堆肥4	2	豚糞+おがくず+稲わら (7日間発酵処理を行い、6ヶ月間堆積)
有機質肥料1	5	菜種粕50%、骨粉25%、魚粕25%
有機質肥料2	5	菜種粕43%、骨粉28%、皮粉22%、ヤシ灰7%
有機質肥料3	8	菜種粕14%、角骨粉34%、乾血39%、ヤシ灰13%
有機質肥料4	6	菜種粕6%、骨粉23%、魚粕3%、乾血9%、草木加里18%、皮粉14% アルコール廃液等27%